

◆ 高島市における風水害について

高島市には安曇川をはじめとする多くの河川が流れています。水防法の改正によって、平成28年5月に「一級河川琵琶湖浸水想定」、令和2年5月に「一級河川安曇川浸水想定」、令和2年3月にその他の中小河川等の氾濫も想定した「地先の安全度マップ」が、それぞれの見直し時点の土地利用や河川整備の状況を勘案しながら国や県によって見直されました。また、令和3年には「一級河川石田川」においても、ダム管理の観点から想定最大規模の降雨を用いたシミュレーションが行われています。

本市では、こうした国や県の最新のシミュレーション結果を防災ハザードマップに反映しています。

お住まいやお勤め先の地域で、大雨時に洪水や土砂災害の危険性があるか、避難場所がどこにあるかや避難時の安全なルート等についてご確認ください、日頃から備えるための資料としてご活用ください。

1 本市における地図の扱い

本市においては、発生の可能性が高い大雨(身近に迫るリスク)に対応した早期避難の体制を強化するため、概ね100年に1度の確率で発生する可能性がある降雨量(計画規模の降雨)によってシミュレーションされた浸水想定図を重ね合わせ、最大となる浸水深の値を「防災ハザードマップ」に採用しています。

また、水防法により想定最大規模の降雨による浸水想定図の作成が義務付けられている「琵琶湖」、「安曇川」のほか、ダム管理の観点から想定最大規模の降雨で浸水想定図が作成された「石田川」において、想定最大規模の浸水リスクについても掲載しています。

2 「計画規模」と「想定最大規模」の違い

計画規模

長期的な河川整備の方針を定める際に用いる雨量(計画規模降雨)を基にした浸水想定区域。「概ね100年に1度の確率」で発生する可能性がある降雨量を用いている。

想定最大規模

国内での降雨実績を基に、地域で想定される最大規模の雨量(想定最大規模降雨)を基にした浸水想定区域。「概ね1000年に1度の確率」で発生する可能性がある降雨量を用いている。

3 ページの構成

洪水・土砂災害ハザードマップ(計画規模)

→P.13~P.56

① 琵琶湖における想定最大規模の降雨による浸水(水防法)

→P.57~P.58

② 安曇川における想定最大規模の降雨による浸水(水防法)

→P.59~P.60

③ 石田川における想定最大規模の降雨による浸水

→P.61~P.62

①~③の各河川の流域で想定最大規模降雨による浸水区域と浸水の深さを表示しています。

洪水・土砂災害ハザードマップ・索引図

この洪水・土砂災害ハザードマップは滋賀県が公表した「洪水浸水想定区域図(琵琶湖・安曇川)」および「地先の安全度マップ」の異なる3つのシミュレーションの結果を重ね合わせて、浸水区域と浸水深が最大となるよう示したものです。

解析条件

●琵琶湖があふれた場合

琵琶湖の水位が上昇し浸水した場合のシミュレーション

【想定条件】 琵琶湖基準水位+1.4m(100年に1度の確率)

●安曇川があふれた場合

安曇川で洪水が発生した場合のシミュレーション

【想定条件】 安曇川流域の2日間の総雨量483mm(100年に1度の確率)

●小中河川があふれた場合

複数の河川氾濫や内水氾濫を考慮した場合のシミュレーション

【想定条件】 概ね1時間109mm(100年に1度の確率)

早期避難が必要な区域

氾濫の勢いで木造家屋の倒壊や河川護岸の欠損により木造家屋が流される危険が高い区域を示しています。区域の表示はあくまで目安ですが、区域内にお住まいの方は早期の避難にご留意ください。自宅が区域に入っていないでもその付近にある場合は、氾濫した水の流れが速くなるおそれがあります。周囲の状況に注意を払い、河川が氾濫する前の避難を心がけてください。

※早期避難が必要な区域は、想定最大規模の降雨でシミュレーションされていますので、防災マップの浸水深が浅くても表示がされている場合があります。

